令和5年9月8日

令和５年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和５年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和5年4月18日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，英語，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　３４人

②　算数　　３４人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

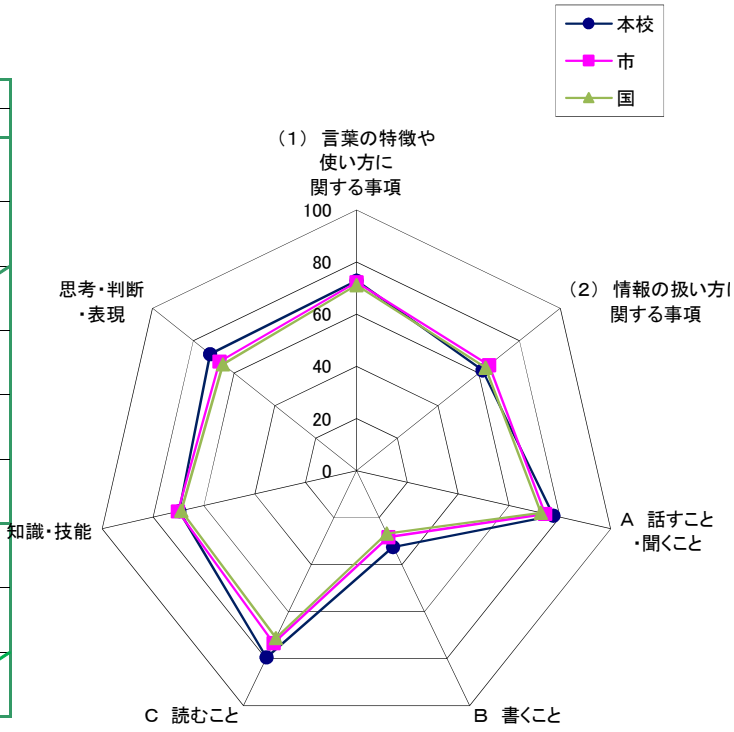
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立平石北小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	72.9	72.3	71.2
	（2） 情報の扱い方に関する事項	61.8	65.0	63.4
	（3） 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと･聞くこと	77.5	74.2	72.6
	B 書くこと	32.4	28.2	26.7
	C 読むこと	79.4	73.3	71.2
観点	知識･技能	69.7	70.2	68.9
	思考･判断･表現	71.8	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

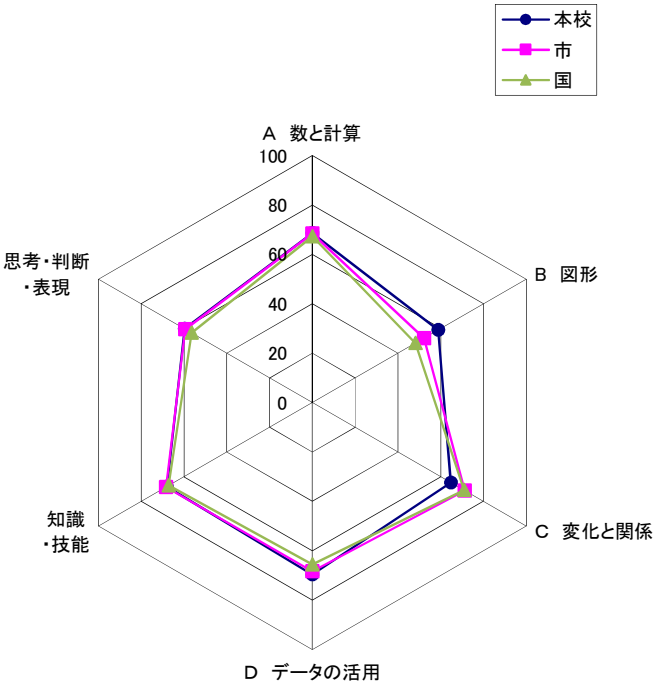
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，国の平均を1.7ポイント上回っている。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で使う問題の正答率は，どれも全国や県の平均を上回っている。 ●文章の種類とその特徴について捉える問題の正答率は，全国の平均を9.2ポイント下回っている。	・今後も同じ漢字を繰り返し練習することにとどまらず，学習において感想や振り返りを書く場面や，日常生活において作文や日記を書く場面などで，漢字を使うことを意識した取組をしていく。 ・1文や2文を短く要約する練習から始め，文章を読み，どんなことが書いてあるのかを把握・理解できる力を付けていく。
（2）情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，国の平均を1.6ポイント下回っている。 ○原因と結果など情報と情報との関係について捉える問題の正答率は，全国の平均を2.9ポイント上回っている。 ●図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し，使うことができるかをみる問題では，全国の平均を6.1ポイント下回っている。	・多くの情報の中から必要な情報を取捨選択したり，情報同士の関係を捉えるために児童が目的や必要性のある課題を意図的に設定したりする場を設けていく。また，「情報の整理」と「読むこと」の指導を関連付けていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は，国の平均を4.9ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて自分の考えをまとめる問題の正答率は，全国の平均を12.2ポイント上回っている。 ●必要なことを質問し，聞きたいことの中心を捉える問題の正答率は，全国の平均を3.4ポイント下回っている。	・今後も話のテーマに対して，ペアやグループで話し合う場を設けるとともに，相手の意図を捉えながら，自分の意見と比べる活動の機会を増やしていく。また，学習したことを進んで伝え合える場を設定する。
B 書くこと	平均正答率は，国の平均を5.7ポイント上回っている。 ○図やグラフを用いて，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについての問題の正答率は，全国の平均を5.7ポイント，県の平均を5.1ポイント上回っている。また記述での無回答の児童はいなかった。	・自分の言葉で考えたり，より適切な言葉を使って表現したりすることに継続して取り組ませ，よいところを伝え合うなどし，適切に表現する経験を積み重ねていく。また，語彙を増やすために，書きはじめの工夫を提示したり，友達と共有したりすることで楽しい作文・日記指導を行い，「言葉を使いたくなる状況」を設定する。
C 読むこと	平均正答率は，国の平均を8.2ポイント上回っている。 ○どの問題も全国，県の平均を上回っている。特に，目的に応じて文章と図表を結び付けるなどして，必要な情報を見付ける問題の正答率は，全国の平均より15.0ポイント上回っている。	・国語辞典や図書，新聞記事などを授業の中でも積極的に活用し，必要な情報を読み取ったり，自分の考えをまとめたりする学習を意図的に取り入れる。また，朝の読書の時間を確保し，文章を読むことの楽しさを味わわせたい。

宇都宮市立平石北小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	68.6	68.4	67.3
	B　図形	58.8	52.2	48.2
	C　測定			
	C　変化と関係	64.7	71.2	70.9
	D　データの活用	69.6	68.3	65.5
観点	知識・技能	68.0	68.4	67.2
	思考・判断・表現	59.7	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	平均正答率は，国の平均を1.3ポイント上回っている。 ○一の位が0の二つの2位数について，乗法の計算をする問題では，国の正答率を16.3ポイント上回っている。 ●示された日常生活の場面を解釈し，小数の加法や乗法を用いて，求め方と答え方を式や言葉を用いて記述し，その結果から条件に当てはまるかを判断できるかどうかをみる問題では，国の正答率を21.4ポイント下回っている。	・文章問題に添って題意を読み取り正しく立式させたり，図や表，簡単な数を用いたりして，求め方を式や言葉で表現させたりする活動を多く取り入れる。 ・立式が正しいかどうかを確認する習慣，線分図などを用い確認できるようにする。
B　図形	平均正答率は，国の平均を10.6ポイント上回っている。 ○高さが等しい三角形について，底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し，その理由を言葉や数を用いて記述する問題では，国の正答率を32.1ポイント上回っている。 ●正三角形の意味や性質について理解する問題では，国の正答率を7.3ポイント下回っている。	・面積の公式を求める際には，公式を導くまでに，図形を分解したり，構成し直したりと具体的な操作活動を通しながら，既習事項を用いて求積することを繰り返し学習する機会を設ける。 ・1人1台端末を活用して，プログラムを組んで様々な図形の作図をする活動をすることで，図形の性質の理解をより深められるようにする。
C　変化と関係	平均正答率は，国の平均を6.2ポイント下回っている。 ○百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題では，国の正答率を16.6ポイント上回っている。 ●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて，知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題では，国の正答率を17.3ポイント下回っている。	・どんな場面なのかをイメージさせるために，具体場面を設け，二つの数量を基に各々の数量の対応の仕方や変わり方を具体的に調べさせるようにする。そこから，立式し数値の確認ができるように指導していく。 ・基礎・基本の定着を図るため問題演習を行ったり，理科や社会の学習においても表やグラフを扱う際に，伴って変わる二つの数量の変化に目を向けさせ，きまりを考える場を積極的に設けていく。
D　データの活用	平均正答率は，国の平均を4.1ポイント上回っている。 ○示された棒グラフと，複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み，見出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題では，国の平均を20.3ポイント上回っている。 ●二次元の表から，条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題では，17.5ポイント下回っている。	・他教科の教材や，実際の資料等も活用し，児童が興味関心をもって問題に取り組めるよう，教材や，指導の方法を工夫する。 ・複数の資料を関連付けて結論を出す事象を学習問題として取り上げ，複数の資料から分かることを話し合う場面を意図的に設ける。それにより，データを注意深く読み取る力や多面的・比較検討する力を育むようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「読書はすきですか」という問いに対して，本校の肯定的回答は91.1％で全国平均を19.3ポイント，県平均を18.0ポイント上回っている。学校全体で読書に親しむ場を設定して読書活動を推進してきたことで，児童の読書への興味・関心が高まり，自主的に読書する習慣が身に付いた。
○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という問いに対して本校の肯定的回答は85.3％で，全国平均を14.6ポイント，県平均を9.2ポイント上回っている。また，「学校の授業以外に普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」という問いに対して本校児童は1時間以上が73.5％，30分以下は0％であった。授業とつながる家庭学習や自主学習ノートの充実，家庭学習カードでの保護者との連携を図ってきたことで，学ぶ楽しさを見出し，自発的に学習を進めることができた。
○「5年生までに受けた授業で，PC・タブレットなどのICT機器を，どの程度使用しましたか」という問いに対して本校の肯定的回答は79.4％で，全国平均を17.0ポイント，県平均を17.7ポイント上回っている。これまでに授業中に自分で調べたり，友達と意見を交換したり，自分の考えをまとめ発表したりする場面でICTを活用してきた。今後も学習内容に合わせてICT機器を活用した授業を行っていきたい。
○「あなたの学級では，学校をよりよくするために学級全体で話し合い，互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という問いに対して，94.2％で全国平均を17.0ポイント，県平均を11.5ポイント上回っている。授業における話合い活動や振り返りの過程での意見交換を通して，子供たち同士の相互理解が深まるようにしてきた。また，児童が話し合って学校や学級にとって必要な係や当番などの組織を作り，児童同士がよさを生かし合いながら協働してきたことで，互いを認め合うより良い人間関係を築くことができた。
●「将来の夢や目標を持っていますか」という問いに対して，本校の肯定的回答は64.7％で，全国平均を16.8ポイント，県平均を18.3ポイント下回っている。学級活動で自分の夢を考えたり，道徳の時間や生き方講演会等で自分のこれからの生き方を考えたりする機会をもち，児童が学校生活に自分なりの目標をもって取り組むこと，さらには自らの夢や希望をふくらませ，それを実現するためには今どんな取り組みをしたらよいかを意識させたい。
●「国語の勉強は好きですか」（全国より6.1ポイント上回っている），「算数の勉強は好きですか」（全国より12.1ポイント上回っている）に対して，「英語の勉強は好きですか」という問いに対して，本校の肯定的回答は55.9％で，全国平均を13.4ポイント，県平均を17.5ポイント下回っている。しかし，昨年度3月の「学習と生活のアンケート」からは26.5ポイント上回った。内容に難しさを感じ，苦手意識をもっている児童が多いと思われるが，グローバル化の時代を生きる子どもたち自身が将来に向けて英語が大切なことは分かっているので，今後も楽しく学習しながら英語力を身に付けさせたい。
●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という問いに対して，本校の肯定的回答は32.4％で，全国平均を25.4ポイント，県平均を26.8ポイント下回っている。新型コロナウィルスの感染の落ち着きを受け，地域で様々な行事が行われるようになった。しかし，それに参加している児童は限られていることがうかがえる。今後も自分の住んでいる地域のよさを知ることの大切さを伝えるとともに，地域行事の紹介や参加の呼びかけを行っていく。

宇都宮市立平石北小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「基礎・基本を確実に習得し，それらを活用する力の育成」 ～ともに学び，分かる魅力ある授業の追究を通して～	・宇都宮モデルの各過程の指導の質的向上 ・情報活用能力の育成 ・読解力（語彙力）の育成，読書活動の充実 ・個に応じた指導の充実	・「5年生までに受けた授業は，自分にあった教え方，教材，学習時間などになっていましたか」という問いに対して本校の肯定的回答は100％だった。 「主体的・対話的で深い学び」の実現のため，「はっきり　じっくり　すっきり」の流れを意識した授業を学校全体で取り組み，授業力の向上を図ってきた。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数において回答時間が「全く足りなかった」と回答した児童が11.8％，終わらなかった児童も11.8％だった。また，「言葉や数，式を使って，わけや求め方を書く問題」を「全て最後まで書こうと努力した。」と回答した児童は67.6％で，全国平均を12.7ポイント，県平均を13.6ポイント下回っている。	算数の授業づくりにおいて，工夫・改善を進め，自分の課題を粘り強く，かつ効率的に解決し学びを深められるようにする。	・主体的な学びを引き出す課題設定，対話を生み出す場の設定，次につなげる振り返りを工夫した授業づくりを実践し，できた喜び，学ぶ楽しみを感じさせることで，粘り強く課題を解決する力を身に付けられるようにする。 ・問題を早く正確に解くために反復練習をしたり，テストで上手に時間配分をするなど大まかな目安を設定したりできるようにする。